

弁 証

八綱弁証

四診で得られた情報を分析し、陰・陽・表・裏・寒・熱・虚・実、八つの証候に概括することによって、病位、病性、正気と邪力の関係等を判断する弁証方法。

■証（証候）

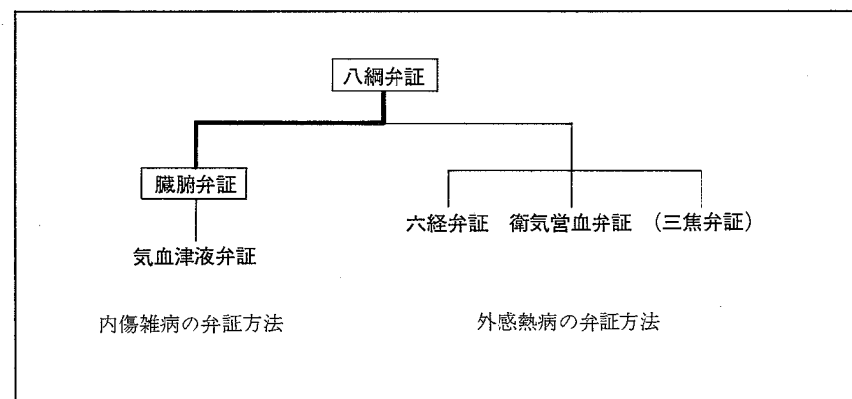
疾病の進展のある段階における病理変化の全面的概括をいう。具体的には、病因、病位、病性、正気と邪力の関係等を概括する。

■弁証

四診の結果得られた情報を分析、総合、概括し、ある性質の証候を判断することをいう。

■施治

弁証の結果に基づき、相応する治療方法を確定することをいう。



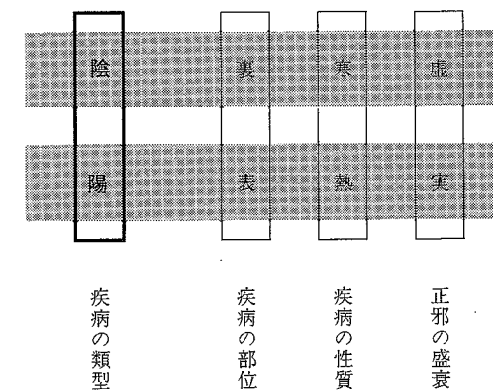
八綱の概念

陰・陽・表・裏・寒・熱・虚・実を指す。

表裏は疾病の部位を、寒熱は疾病の性質を、虚実は正気と邪力の関係を表わす。陰陽はこれらを概括して疾病の類型を表わす。

陰陽と他の六綱との関係

陰陽は他の六綱を概括するため、八綱の総綱といわれる。すなわち、表・熱・実証は陽に、裏・寒・虚証は陰に属す。



八綱の相互関係

八綱は相互に関連し合っており、一つ一つを切り離して考えることはできない。このため、表裏を弁別するときは寒熱虚実と、寒熱を弁別するときは表裏虚実と、虚実を弁別するときは表裏寒熱と結びつけて考える必要がある。

また、疾病の変化は複雑なため、表裏、寒熱、虚実が同時に出現したり、転化がみられたり、疾病の本質とは異なる仮の現象が出現するなど、様々な状況が生じる。弁証の際はこれらの点にも注意を要する。

I. 表裏弁証

1. 表証

概念

六淫の邪が皮毛や口鼻から人体に侵入することによって生じる、外感病の初期段階にみられる証候。

病因病機

六淫の邪（風・寒・暑・湿・燥・火）が人体を侵襲する。

症状

発熱・悪寒（あるいは悪風）・苔薄白・脈浮＋頭痛・身体痛・鼻塞・鼻水・
がいそう 咳嗽

分析

発熱	外邪が肌表を襲うため、肌表を守る衛気 <small>えき</small> が邪気と抗争し、熱を発する
悪寒（悪風）	風寒の邪の侵襲によって衛気（陽気）が閉じ込められ、悪寒を生じる。あるいは、風熱の邪の侵襲によって腠理 <small>そうり</small> が開き悪風を感じる
苔薄白	邪が体内に深く侵入していないため、舌苔の変化も顕著には現れない
脈浮	衛気と邪気が肌表で交争していることを表わす
頭痛，身体痛	邪が体表部位の経絡に鬱滞し、気血の運行を妨げる
鼻塞，鼻水，咳嗽	肺は皮毛をつかさどり、鼻 <small>きよう</small> に開竅する。外邪が肌表を襲うと、その影響で肺の宣発 <small>せんぱつ</small> *の機能が失調する

*肺・大腸病の弁証(p.91)参照。

治法

辛散解表

2. 裏証

概念

人体深部（臓腑・気血・骨髓）の病変を反映する証候。

病因病機

外感病 表邪が裏に侵入
 外邪が直接臓腑を侵襲——“直中”
 内傷病 ストレス，飲食の不節制，肉体疲労 } 臓腑の機能失調

症状

省略

治法

省略

裏証の範囲は非常に広い。具体的な症状と治法については、虚実弁証および臓腑弁証を参照。

★鑑別のポイント——表証と裏証の鑑別

	表証	裏証
病程	急に発病し病程は短い	久病で病程は長い
寒熱*	発熱と悪寒がともに出現	発熱のみ，あるいは畏寒のみ出現
舌苔	無変化*	多変化
脈	浮	沈

*寒熱は悪寒，発熱を指す。
 *風熱表証では，舌尖，舌辺が紅くなる。

3. 表証と裏証の関係

(1) 表裏出入

表邪入裏

|| 概念 ||

疾病の過程において、一定条件のもとに、表邪が裏へと伝入する。

|| 成因 ||

邪気が極めて盛ん。

人体の抵抗力が低下する。

治療が不適當。

|| 例 ||

表証で悪寒・発熱がみられたところ、悪寒は去り逆に悪熱が出現し、同時に口渴(多飲)・舌紅・苔黄・尿の色が濃い等の症状がみられるような場合、これは表邪が裏に入り裏熱証に転じたことを表わす。

裏邪出表

|| 概念 ||

疾病の過程において、一定条件のもとに、裏邪が肌表に透達する。

|| 成因 ||

治療が適當。

人体の抵抗力が増強する。

|| 例 ||

裏熱証を呈していた者に、発熱とともに発汗がみられる、あるいは発疹が現れるような場合、これは邪が裏から表へと透達したことを表わす。

(2) 表裏同病

表証と裏証が同時に出現することを**表裏同病**という。出現の状況としては、次のいくつかがあげられる。

- 発病当初から表証と裏証が同時に出現する。
- 表証がとり除かれないうちに、表邪が裏に侵入する。
- もともと内傷病があるところへ外邪を新たに感受する。
- すでに外感病があるところへ、暴飲暴食などで臟腑を傷める。

表裏は寒熱虚実と相互に関連しているため、表裏同病も多種にわたる。**表寒裏熱**、**表熱裏寒**、**表虚裏実**、**表実裏虚**等がよくみられるが、くわしくは寒熱、虚実弁証を参照のこと。